

発達検査と対人援助学

⑰ 赤ちゃん研究の第二幕

大谷多加志

一般社団法人の設立時社員になりました

今年の8月に、新しく設立される一般社団法人の設立時社員かつ理事になりました。無給の公益性重視の一般社団法人なのですが、この辺りを届の提出で許可してくれる大学の寛容さがありがたいです。この一般社団法人の名称は『子どもと育ちのコホート研究・実践協会』となっていて、乳幼児の発達研究の実施や支援を行うことを目的に設立されました。法人の設立に関わるという、これまでに想像もしていなかった展開に、戸惑い半分、わくわく半分という感覚です。41歳で前職を退職した時に個人事業の開業届の提出くらいはやったのですが、法人設立となると比べ物にならないほどたくさんの手続きがあり、とても自分にはできない仕事だと思いました。主導して下さった理事の方に感謝です。この法人の設立にはBOLD (Baby Online Live Database) という件級プラットフォームが関わっているのですが、本日はこのBOLDを含めた赤ちゃん研究関係の近況について書いてみようと思います。

BOLD のこと

『BOLD とは、日本赤ちゃん学会ライブデータベース研究部会が運営する発達研究

のための新しいオンライン調査システムです。全国の大学等の発達研究者と子育て中の保護者をつなぎ、自宅から気軽により多くの方に研究に参加してもらうことを通じて、人の心や脳の発達、そして発達の個人差を多面的に把握することを目標としています。単なる研究の場所としてだけではなく、赤ちゃん、保護者、発達研究の研究者の交流の場となることも目指しています。』（日本赤ちゃん学会ライブデータベース部局ホームページより）

Web または紙媒体の調査票に回答してもらうことでデータを得る。少子化が進み、乳幼児（特に多くの場合在宅である0歳児）の発達調査を行うことがますます困難になっていくと予想される中、このようなオンライン調査は今後さらに本格化していくと期待されます。一方で、オンライン調査にはメリットだけでなく、デメリットあるいは限界もあります。赤ちゃんとは直接会うことはできませんから、調査手法は限定されます。また多くの場合、対象者は自宅などから参加することになり、参加のハードルは下がりますが、調査場面の設定を厳格化することは難しいです。ただ、これらの限界はあっても、やはり今後オンライン調査は赤ちゃん研究の中での大きな流れになっていく

と思います。

BOLD システムの利用を検討される研究者の方や、調査に参加してみたいお子さんの保護者の方は、以下のリンクから連絡あるいは BOLD へのご登録をお願いいたします（登録無料です）。また研究者の方は加藤ほか（2024）や、Kato et al.,(2021)などにシステムの特徴や今後の展望について書かれていますので、併せてご参照頂ければと思います。

【BOLD の登録手順はこちら】

[resigtration \(bold.or.jp\)](https://bold.or.jp/resigtration)

【BOLD を利用したい研究者の方はこちら】

[研究者向け情報 \(bold.or.jp\)](https://bold.or.jp/researcher)

赤ちゃん調査のこと

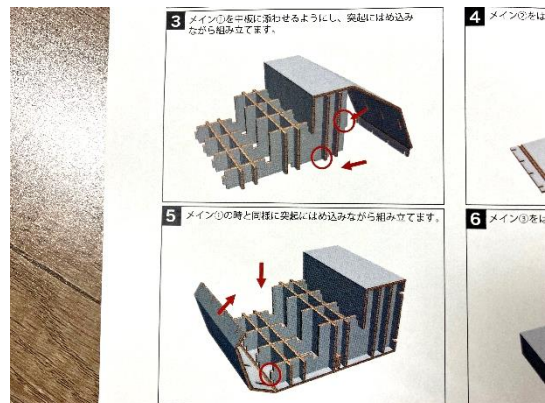
そんな想像が膨らむ BOLD のプロジェクトにこれからも関わっていくわけですが、一方で自分自身はほとんどの調査を対面で実施し、調査手法もアンケート式のものはほとんど使ったことがなく、個別に実験的な手法を用いてデータを得ることは中心です。そうすると、オンラインによる制約は、相対的にほかの研究者と比べても大きくなってしまいます。あとは単純に、赤ちゃんと一緒に遊びながら調査をする方が好き、というものがあります。

ここからは執筆者短信に書いたこととも重なるのですが、対面での赤ちゃん調査のお話です。これまで、対面での赤ちゃん調査は同志社大学赤ちゃん学研究センターに共同研究の計画を採択して頂き、実施してきました。おそらく 2018 年が最初の共同研究だったので、そこから 7 年目ということに

なります。今、科研費を得て行っている研究も、もともとは赤ちゃん学研究センターの計画共同研究でスタートを後押しして頂いたことがきっかけで、センターとの出会いがなければ今の研究活動はまったく実現できなかったと思います。

その赤ちゃん学研究センターが、2024 年度末で学外の研究者への共同利用事業を終了することとなったと発表されました。シンプルな寂しさと、あれほど助力頂きながら大した成果を出せなかった申し訳なさと、慣れ親しんだ訪問先がなくなる喪失感など、いろいろな感情が渦巻きまわっています。とはいえ、まだ赤ちゃん学研究センターでの調査は今年度末まで続きますので、最後までやりきり、これまでの成果もできるだけよい形でまとめられればと思っています。

一方で考えないといけないのが、自分の研究活動のこれからです。いくつかの研究テーマがありますが、やはり赤ちゃん研究が一番ウエイトが大きなもので、これが続けられなくなるのは大きな痛手でした。それで、少し自信はなかったのですが、自分の研究室で独自に赤ちゃん調査をスタートさせてみることにしました。幸いにして、学内の単年度の研究助成を得ることができ、調査スペースの設備購入費を準備することができました。



イオンモールでフロアマットを大量買いして床に敷き詰め、本棚に覆いをつけるためにカーテンとカーテンレール替わりの針金を設置し、最後に室内における組み立て式のダンボール階段を特注で作ってもらって、赤ちゃん学研究センターの調査室をギュッとコンパクトにしたような調査室が誕生しました。倫理審査などの手続きも完了し、あとは参加者募集ができれば、いつでも調査を始められる段階になりました。自前でこのような試みができるのも、これまでに与えてもらった機会があったからにほかなりません。終わるものもあれば始まるものもあります。ここまでつながってきたものを、よりよい形で次につなげていきたいです。



※予算不足で手すりは自作しました！

文献

- 加藤正晴, 土居裕和, 孟憲巍, 村上太郎, 梶川祥世, 大谷多加志, 上原泉, 箕浦有希久. (2024). Baby's Online Live Database によるオンライン縦断研究. 心理学評論, 67(1), 95-108.
- Kato, M., Doi, H., Meng, X., Murakami, T., Kajikawa, S., Otani, T., & Itakura, S. (2021). Baby's Online Live Database:

An Open Platform for Developmental Science. *Frontiers in Psychology*, 12. doi:10.3389/fpsyg.2021.729302